

議事概要

我孫子市鳥の博物館展示リニューアル基本計画 第5回検討委員会

日時 2024年11月19日(火)13:30～15:30

場所 水の館 3階 研修室

出席者(敬称略)

検討委員会委員(委) 小川博委員、西海功委員、鶴見みや古委員、平岡考委員、相良直巳委員、
福井彰委員、神野智尚委員、伴野茂樹委員、中井達也委員、森俊憲委員

事務局
我孫子市鳥の博物館(館) 森田康宏、木村亜由美、木下登志子、鈴木ひなの、望月みずき
株式会社乃村工藝社(乃) 横田 浩志、北村 喜裕、蛭田 真衣、後藤紳一郎

傍聴人 なし

配布資料

次第
資料1:鳥の博物館展示リニューアル基本計画(骨子)
資料2:鳥の博物館展示リニューアル基本計画(案)
資料2補足:鳥の博物館展示リニューアル基本計画(案)イメージスケッチ A3

次第	概要	発言者
1 館長挨拶		
2 議事		
① 展示リニューアル基本計画(骨子)について		
・骨子報告	(資料1により説明)	
	・骨子が固まった。前回提示の資料からの変更点について説明する。	館
	・P3 ②情報充実の必要性 前回の意見を踏まえ、「鳥類学全般を扱った単科博物館として日本で唯一の博物館」と記載を加えた。	
	・P6 (2)デジタル技術を活用した展示 前回の意見を踏まえ、④体験性の向上とくくり、「インタラクティブ展示により」と加えた。	
	・P7(3) わかりやすい構成・動線 前回の意見を踏まえ、「鳥と人と共存」→「人と鳥の共存」と直した。	
	・P11 1階を追加した。	
	・P10 上から3つ目 前回の意見を踏まえ、「食用としての鳥の利用など」を加えた。	
	以上報告した以外の意見もいただいたが、具体的なことは今後のリニューアルでできるだけ反映したいと思う。また、検討が必要なことについてもまだ反映はできていないところがある。	
② 展示リニューアル基本計画(案)について		
・案説明	(資料2により説明)	
	基本計画(案)は大きく言うと展示イメージのところを加えている。変更点を順に説明する。	乃
	・目次を入れた	
	・P2 4つの基本方針が目立っていなかったの、見えてくるように表現の仕方として他のところとは違わうにした。	
	・P9 展示計画 以前は現在の動線をベースに2階から描いていたが、不自然と感じる方もいると思い、最初に全体に共通することを持ってきて、その後ろに各階について記載した。	
	1階については本当にミュージアムショップが移転可能かどうか前回の時点ではわからなかったの、検討するという書きぶりになっていた。また、場所は受付側の壁面を想定して	

	描いていたが、受付の壁面は躯体壁で手を入れるのが難しそうであり、狭すぎるだろうと いうことでオレンジの場所にしている。	
	・P10 多目的ホールは収蔵展示的に見せていく場合、空調設備に問題はないかを調べ 、概ねこの位置に改修は可能だろうとわかった。	
	・P11 3階は大きく要素ごと位置を変えるなど2階に比べ大きく変えることになるということ で、3階はイメージスケッチを入れている。	
	・P12からイメージスケッチと説明を入れて、右上はキープランを表している。系統樹につい ては、結構な頻度で更新されるということだったので、単独で変更してもおかしくならな いように配慮する必要があるということを書くべきだろうということを入れてる。	
	・補足資料として、A3イメージスケッチも用意した。提案時点の資料ととらえてほしい。提 案したものと、協議した基本計画(案)とで、時点が異なるので多少文章など違っている。	
	・P13 現在の世界の鳥の中央にコーナーを作って、飛翔の部屋の飛ぶメカニズムなどを 移設してきて、鳥の行動や生態を一つにまとめて見せるものとしている。資料に記載の 「巣づくりの様子など」は以前の資料にあった山形県立博物館など事例としていたものを はめ込んでる。	
	今も壁面に鳥がずらっと並んでいるのは圧巻というか迫ってくるものがある、そのインパ クトは一つ大きなところだが、一方で展示を見ていくという静的なところがある。それに 比べてもう少し触ったりできる要素を入れて、それを全てデジタルに頼ってインタラクティブ にするということではなく、この絵の中央のように什器があって引き出しを開けると、例えば 骨が見れるなど、めくりグラフィックのように、表に質問があり裏に答えがあるというよう な動きのある、触れたりする展示を工夫していく必要があると思う。具体的にはこの絵のと おりということではなく、設計で検討するイメージをしている。	
	・P14 今までの議論にあった収蔵の逼迫への対応や収集すること自体の大切さというも のを記載している。	
	・P15 概算事業費 多目的ホールを収蔵展示室へと改修するにあたって空調工事費が 必要になるという部分と、1階へのミュージアムショップの移転に伴う費用を加えている。	
	・意見など発言してほしい。	委員長
③ 質疑応答	・かはくの鳥の特別展を見てきた。展示が立体的で広くてとても見やすく、写真撮影の箇所 もあり、ショーケースもガラスがなくて随分印象が違うと感じた。今回の基本計画(案)も立 体的に見えるようでよいと思う。	中井
	・かはくに携わる者として、以前「大哺乳類展」で、哺乳類はものが大きかったが、今回の 鳥は600点以上あるのでスペースが足りないと思ったが、吊りものを使うなど、たくさん鳥 を置いても圧迫感がないということに気づいた。点数が多いとキャプションが多くなり、何 をどう説明するかが大変だが、スペースを考えると数という面では置けるのではないかと 思う。それをどう表現するかは学芸員の先生に係ることだが、お伝えしたい。また、ガラ スがないというのは3ヶ月という短期間の展示ということもある。	福井
	・P2に4つの基本方針、鳥類学の最新情報のところ、ゲノム解析の情報を追記すると姿勢 が皆さんに伝わるので検討してほしい。	森
	・系統樹についてもゲノム解析の情報をということだと思う。P2の下から2つ目の項目のよ うな手法を使っていろいろわかってきているということで、示してもらえたらと解釈する。	委員長
	・どちらかという新しい研究方法を研究成果として反映するような表現をしてもらえ たらという意味である。	森

	<p>・P2の基本方針で取り上げるなら、それは特定しすぎではないかと思う。最新の成果とはそれだけでなく、何か素晴らしい研究成果が違うところでも出てくる可能性があるのも、ゲノム解析だけ書くと、少しバランスがどうかと思う。もっと細かいところで、系統樹をこうしますとかという記述があればそれはゲノム解析とできるかもしれないが、いろいろな手法でいろいろな成果が新しく出てくるということだと思うので、P2というならば、今のP2の表現で追記しない方がよいと思う。</p>	平岡
	<p>・最新の情報を全体を通して少し具体的に追記できる場所があれば、事務局で検討してみる。</p>	館
	<p>・ゲノムに限らず、新しいデータを情報として提供しますということと、今の話のように、しかるべきところまでできるようであれば追記していくということと思う。</p>	委員長
	<p>・鳥の行動・生態のコーナーのイメージで、視覚的に鑑賞するだけでなく、触れたり、開いたりすることで、子どもたちが興味を持って知識に出会えるように工夫する。と書いてあるが、子どもたちが触れたり、開いたり体験的なところはとても興味を持って博物館に足を運んでくれると思う。</p> <p>クイズやスタンプラリーのようなものがあつたら、学校としてはよいと思う。</p> <p>また、イメージスケッチ『鳥の行動と生態』コーナーのイメージ中央にレイアウトされたコーナーについて質問するが、白い部分が人間の目に見えるもので、黒い部分が目に見えない鳥のメカニズムと描かれているが、素人や子どもたちが見たときに、どこが行動なのかどこが生態なのか素人にもわかるようにしてもらえるとよい。</p>	神野
	<p>・黒の側が行動で、白の側が生態というふうにするつもりで書いたものではない。一つの仕子の真ん中のところに、タイトルを描いたらそうってしまったということになる。真ん中が行動と生態で、見えるほうと見えないほう、そういうものを払拭するために、もしかしたら、一つの鳥に置くのではなく分けたほうがよいかもしれない。あくまでイメージとして考え方を示したもので、配慮が足りなかったかもしれない。</p>	乃
	<p>・クイズコーナーの話があつたが、今3階にあつてかなり古いシステムなので、展示を入れ替えるときに新しい展示と連動したクイズコーナーを導入できればと思っている。</p>	館
	<p>・かはくの特別展を見て展示以外で、よいと思ったのは、鳥の秘密、イラストで、おそらく小さい子どもでも鳥に興味をいだくようなマンガがあつたのでおもしろい。リニューアルでそういうスペースがあるとまたおもしろいのではと思う。ちょっとクイズに近いかもしれない。もう一つは、BGMで鳥の鳴き声が流れていたこと。取材で鳥博に行ったときは鳥の鳴き声ではなく空調のごおーという音が聞こえた。鳥展ではいろいろな鳥の鳴き声が聞こえて良いと思った。見るだけでなく、聞くという部分も配慮してもらえるといい。</p>	中井
	<p>・かはくの鳥の特別展で総合監修をしたが、声で雰囲気を作るというのは落ち着いて見れるという点でよかったと私自身も感じている。研究者としてはどうしても説明したくなるが、どういうふうに見やすくするかが大きな課題であった。今回気を付けたのは鳥のことが好きな方やそうでない人など、いろいろな階層の方が来るので、来場者の知識がバラバラなことを想定していろいろな方に楽しんでもらうようにした。そのためによく鳥のことを知っている方は系統とか分類とか変わったところをわかりやすくし、そうではない方には、楽しく、気に入った標本があれば、どんな鳥なのかというのを見られるよう解説を簡単に書くようにした。文字を追うのが難しい方にはマンガを見てもらうということを意識した。いろいろなレベルの人が楽しめることを考えた。かはくの場合、来館者数が多いのでタッチパネルで操作するというのはやりづらい。逆に鳥の博物館だったらできると思うのでタッチパネル</p>	西海

	で詳しいことは見せられて、楽しめるだろう。そういうことも含めてできると思うので、階層性というのでも考えて取り組むのがよいと感じている。	
	・西海委員にうかがいたい。展示業者は、最新のハイテクな提案をしたりすると思うが、どのように切り分けて決めていくものなのか。展示業者からよいですと勧められれば、よいものと受けとめると思うが、そのあたりはどうか。	平岡
	・いろいろと取り入れられていけるとよいという姿勢だが、予算との兼ね合いなどもあるので、そこが難しいところ。	西海
	・できるだけおもしろくということか。	平岡
	・そういうことになる。導入すると効果的なものはなるべく考慮しつつ予算との兼ね合いで力点を置いたりもする。鳥博を見て思ったのは、保全のところは動画による解説があったほうがよいと思うし起源の進化など各コーナーに置いたほうがよいのではと思う。	西海
	・BGMとはどういうものだったか。	館
	・映像の中に鳥の鳴き声が入っていて、会場全体に流している。	西海
	・ハコモノ設備としてのリニューアルというところかというと、いろいろと検討が必要な事項があると思うが、運用面も付け加えてもらえるとういのではないかと。施設が大きいわけでないので限度がある。再訪するお客様もいれば一過性のお客様もいる。できるだけ多くの方に再訪してもらいたい。	相良
	例えば、リピーターを作るというところかというと、鳥の博物館を見て見学した、いろいろ体験した。それが自宅に帰ったり、学校に帰ったりしても続くようにということでこの展示の延長線のようなネット経由で鳥の博物館で見たあの鳥がきれいだったとか声が素敵だったとかもう一度聞いてみたいとかいうことにつながるとよいと思う。あるいは鳥の行動で飛んでいるところの特徴的なところをもう一度を後で見れるとか、そういったものに広がるとよいかと思う。やれることには限度があると思う。少しずつでもそういうのがあると、この鳥の博物館の施設規模の限界を越えることができるのではないかと。	
	また、小中学校の団体が入ると、他の客が入りづらい。運用面の動線や対応もこの中である程度考えるとよいと思う。あとは、かしくはガイドブックも素晴らしい。鳥の博物館を来訪しているときだけでなく、その後のことにもつなげるような仕組みをリニューアルの計画の中に一緒に組み込んでもらえるとうさらに素晴らしい。そのようなことを一緒に考えたい。	
	・リピーターを増やしたいと思っている。そのためにはどうしたらよいか考えたところ、例えば、P17運営体制の情報発信、(4)の市民との連携というところに入力していないといけないのではないかと考えている。具体的にどこまで書き込めるかはいまだ未知数なので、このようにぼかした形にしている。もう少しかみ砕いて書けるかはもう少し検討してみたいと思う。利用している学校の団体の場合2、3団体が同じ時間帯にならないよう受付時に対応している。来年からはネットで予約ができるようにしていきたいと思っている。一過性でなく、何度も来てもらう工夫は大切だと思うので、もう少しわかりやすい書き方にできるか検討してみたい。	館
	・ジャパンバードフェスティバル内山先生のところに行った際、QRコードがあってよいと思った。展示に関するのではないかもしれないが取り入れてもらうとうよいと思った。	中井

	・QRコードはよいと思っていて、来年度QRコードを使って鳥の鳴き声を流せないかと考えており、予算との兼ね合いもあるが、リニューアルに先駆けてやってみたい。	館
	・今はスマホを持っているので、博物館で端末を準備しなくても皆さんの方で勝手に見ることが出来るものかと思う。P10図書・体験学習コーナーはどのようにしていくイメージか。	委員長
	・学芸員で出した最初の案としては、子どもたちが自由に標本を見て触れて体験してもらうとか、鳥の生態を見るため、現在、多目的ホールの引き出し式のボックスの中に足やくちばしなど実物を入れているが、拡大して学芸員室の前に設けることで自由に見てとれて、質問あれば学芸員に聞けるという想定をしている。	館
	・図書ということで、例えば、学芸員の研究成果や専門的な検索ができるかそういったこともできるのではと思ったので伺った。	委員長
	・QRコードの話が出たので触れると、QRはいろいろなところに貼ることができる。かはくでは寄付の手段として、数十万円など大型のものしか受け付けてこなかったが、最近考えているのは100円200円の寄付も塵も積もればで、集めて何かに使うということ。QRコードを適切な場所につけて賛同いただける方には寄付をしていただくという様に今は、割と手軽に寄付集めができるのではないかと思う。もう一つ、常設展示でモニターを使うことがあるが、鳥の博物館で今回の次のリニューアル時期を想定したとき、現実的に考えると15年や20年先となってくるのではないかと思うが、いずれパソコンのOSが古くなって改修ができなくなってくる時がくる。どういう機材を使うかというのは、実施設計の後の調達に係わってくると思うが簡単に改修ができる機材を使うとか耐久性やランニングコストも含めた費用の検討を十分したほうが良いと思う。	福井
	次に、P14見せる収蔵庫はよいと思う。スペースが取れない中で、少しでも収蔵スペースを増やすというのはすごく有効なこと。学芸員の方がいろいろ研究しているのを見たりできるし、博物館の研究やどうしてモノを集めているのかということに触れる場にもなると思う。収蔵庫の空調設備はどのくらいのランニングコストがかかってくるのかとか、建設費用に影響があるのかとか、金額感がそれなりに大きいのであればP15の概算事業費に言及してもよいのではと思う。	
	・この前の企画展のときに感じたことだが、企画展示室のケースの中の温度が高かった。空調をしっかりしないと、展示するものによっては劣化が心配なので、配慮が必要と思う。	鶴見
	また解説については、QRコードを活用して長い説明ではなく、展示では簡単な説明をしてより詳しいことを知りたい方はQRコードの説明を見てくださいという形ができればよいと思ったが、システム環境でQRが使えないということだった。これは館の問題だけではなく、通信環境も関係するかもしれないがそのあたりの検討もできればと思う。	
	・今の話はQRコードを携帯で読んでつながれば済むことだと思うが、どのような事情を言っているのか。	平岡
	・これは展示の解説パネルを検討する際に出た話だったと思うが、館内でQRコードを読み取ろうとしてもつながらないことが多いので、止めたほうがよいといったことだったかと思う。スマホをかざしても情報が入ってこないということだと思う。	鶴見
	・以前館内で出た意見は、企画展示室は実際に通信環境が悪いが、Wi-Fiが市民向けのものがなくて、そうするとデータ通信が重たくなると、利用者の負担が大きいから、あまり	館

	入れないほうがよいのではということだと思う。もし、QRコードを導入するなら、館として、我孫子市として、公式フリーWi-Fiのような通信整備とセットでやった方がよいと思う。	
	・QRコードを活用することができれば、音声で鳥の鳴き声が聞けたり、知りたい鳥の生態を見れたりということによりよいことだと思うが、Wi-Fiを館内に設置した後でないと思えないと思うので是非整備を検討してほしい。最近はこの博物館に行っても、Wi-Fiがいろいろな情報がとれる状態なのでその点を配慮いただけたらと思う。もう一つ、来館する人の立場から、休憩する場所が必要になってくる場合があると思うが、その場所が明確にわかるように、飲食ができるのであればそれはどこか具体的に示していただき休めるところを配慮してほしい。	伴野
	・飲食可能にすると、博物館が単なる弁当を食べたり、トイレ休憩の場所になってしまうということがあるだろう。もちろん飲食はできれば喜ぶ人もいると思うがデメリットもあると思う。	平岡
	・現状は、飲食スペースというわけではないが、友の会ルームで、仮に飲食したいとなれば、そこを使ってもら。但し、普段から使用できるものでないので、いろいろな意見があるということ踏まえ、できる範囲を検討した上での実現となる。また、館内の通信環境については、現状でも通信環境が悪いので、リニューアル後はQRコードを読めるよう、Wi-Fiの設置も同時に行う必要もある。	館
	・さかのぼる話だが、3Fの見せる収蔵展示を作った場合、空調のことで指摘をいただいた。空調の状況を調べたところ、3Fは全体で一空調になっていて、今は見せる収蔵にしようと思っているところから、それ以外のところに向かって吹き出して、空調は一方向にまわっているという状態である。よって、見せる収蔵のところは空気が出てきて一番フレッシュになり、そこから他のところに出ていく一方である。ただ、他の部屋(展示室)との完全な遮断はできない。今のシステムから空調をもう一系統別に作るようなことにしないと完全な収蔵品質にはならないので、それをあくまで収蔵展示室だと、あるいは展示室全体のレベルを少し上げてそれによしとするのか、完全な切り分けをして本当に収蔵庫にするのかで費用も大分変わってくるのではないかと思う。感覚としてはかなり大がかりな工事が予想され難しいのではないかと思われる。	乃
	・少し前に、2Fが暑いと言われた。今は博物館用の蛍光灯は使っているが、多分LEDよりは熱がこもってしまうのかと思っている。リニューアルに合わせて、手立てをしなくてはならないと思っている。	館
	・1Fの収蔵庫は24時間空調か。展示室は別なのか。	森
	・収蔵庫は展示室とは一応別系統になってはいる。24時間ではない。	館
	・収蔵庫の空調は24時間でなく、状況に合わせて運用しているとのことだが、近い将来収蔵庫を増設や新設などが今後の検討の中で、課題として残っているのではないかと思う。	森
	・指摘のような収蔵環境にするのが一番だと思っている。ただ、市立の博物館で現実的な部分としては、これだけでも多くの費用もかかることなので、収蔵庫で完璧な24時間の空調でというのはなかなか難しいところもある。この基本計画に書き加えるのは難しいので、一番よい環境にどれだけ最適化が図れるのかについては考えていきたいと思う。	館

	<p>・支援事業者からも補足すると、空調が停止する、停電リスクもある。空調を充実させることは一つの解決方法としてももちろんよいが、空調が止まってもそこから何時間温度が変わらないか湿度が変わらずに保てるかそういう内装環境であったり、あるいは吸湿材がしっかり入っているかなど運用面で補われているかということがむしろ重要になるように思う。例えば、停電しても一日であれば、プラスマイナス1度位しか動かないように部屋が作られているのであれば、空調を24時間まわす必要性がなくなると思うので、必ずしも24時間空調が正解とは言い切れない部分があるように思う。よって、書き方が難しいところがある。新設の収蔵庫が24時間空調が正解とし、内装環境が疎かになるというのも難しいところがあると思う。</p>	乃
	<p>・収蔵環境はできるだけ一定の温湿度を維持するということで、可能な範囲で努力するという事だと思う。常に空調機を稼働させることは、費用など現実的な面からしてもかなり難しいことと思うので、必ずしも24時間稼働にしなくてもよいと思う。山階の場合、たとえば冬は温度が下がってくるので、温湿度計を見て空調機の稼働が必要ない場合はスイッチを切っている。常に温湿度の記録をとり必要に応じて空調を稼働させるといったことで対応している。</p>	鶴見
	<p>・先程のP10図書・体験学習のところで、学芸員室の前で体験ができるという話があったが、学芸員室の壁が長くて、動線が長いのでボタンを押すとか学芸員がかけつけてくれるかなとされてもよいのではと感じた。もう一つは、飲食のスペースも含めて、再入館はできるのかどうか。例えば、少しの休憩で外に出た場合再入館できるのかどうか。</p>	中井
	<p>・再入館はチケットを見せてもらえれば入れる。</p>	館
	<p>・了解した。</p>	中井
	<p>・図書・体験学習コーナーから学芸員室まで壁が多いのではという意見をいただいた。まだ変わるかもしれないが、一つの案として、現状のショップの会計場所に学芸カウンターのようなもの置いておくとか対応しやすいのではないかと案がある。あるいはカウンターなしで体験学習コーナーにボタンがあって質問ができるような仕組みも必要かもしれない。</p>	館
	<p>・時間的なところもあるし、よければ、その他の意見に移りたいと思う。今回で検討委員会が最後だということで、他に意見はないか。</p>	委員長
	<p>・情報発信の面でSNSをどんどん活用してほしい。HPは充実しているが、見る人を呼び込むためにSNSを利用した方がよい。是非鳥博でもアカウントをとって一日に何回も発信してHPに来てもらう仕組みをとってもらいたい。もう一点は、先日ははくに行ったときに、とても感動したのだが、上野駅を降りたら、鳥という大きな文字のポスターがあり、それだけでとてもワクワク感が出た。我孫子駅を降りても、なかなかそういうのがない。鳥博の駐車場に来て、今何を展示しているのか、何がおもしろいのか、なかなかわかりづらい。そういう看板を見てくる人いるのではないかと。展示ではないが、鳥博以外のところで、そういうPRができるとういと思うので工夫してもらえたらと思う。</p>	中井
	<p>・SNSについては指摘のとおりと思う。情報発信をしていきたい。それと、広告の話も、確かに指摘のとおり。近くまで来ないと何をやっているのかわからない状況で現状、市の施設でも動画を流しているが、駅のサイネージでも流してくれるという話もあるようなので、JRとも協議できれば、デジタルサイネージも活用して企画展の案内などで来て館者が増え</p>	館

	る仕組みにつながればと思う。	
	・一つは、P4の展示以外の課題のところ、「友の会との交流が限られており、館との関係が比較的希薄である。」というところ、友の会ということであると、とてもコアなリピーター作りが考えられる。リピーターを増やすには、どのように充実した活動ができていくかが大切だと思う。あと、相良さんが言われた立体的な展示を見て家に帰ってネットで復習できるとかあるいはQRコードで、展示されているはく製が動くところ見えるということを動画で示せるということがある。こういった立体的に見せられる内容として何が良いかは、学芸員の頭に入っていないといけないことだと思う。その意味で、学芸員が平素から自分の見識を持って勉強しているということがないと、QRコードの仕組みだけ作ってもうまく行かないと思う。館の中の人たちが充実した活動をして見識が高まっているというのが大切だと思う。基本計画に載せるということではないかもしれないが、そういう点が大切だと思う。	平岡
	・友の会や野鳥を守る会などいろいろとノウハウをたくさん持っている方々と本来この基本計画検討を一緒にやっていくべきと思うがこちらのペースだけでできるものではないと思うので、課題とは思いつつも、基本計画には書き込むのは難しい。ただ、スタートにあたって共に作っていく博物館であると考えているので、そういうところで検討できればと思う。	館
	・友の会に話し合いの場を持っていただきたいと思っている。それをできるだけ早く行いたい。その理由は長年友の会の活動をしている中で、やはり、いくつか示唆がある。一部活用していただいて、積極的にいろいろなコンテンツを作る上で必要なものもあると思うので、是非話し合いたい。	伴野
	もう一つは、この場を借りて伝えたいが、市民スタッフの方が野外活動に参加してもらっている。野外活動として何を目標に何をやっていくか。博物館と市民スタッフテーマを決めて、ターゲットをどう設定するか、どういう企画を年間やっていくかということで活動しているが、もっともっと活用できると思う。市民スタッフの中でももっと動きたいと考えている方もいるので、是非話し合いをしてほしい。	
	・来年度も是非とも友の会や市民スタッフの方と連携をしていきたいと思う。	館
	・是非そのときには、学芸員の方だけでなく、事務的な手続きなどいろいろあるので事務方にも参加してほしい。	伴野
	・学校教育の面でも市の施設としてとても大切なので、連携をどうやっていくか大事。どういう内容を入れたら学校教育の中に位置づけしやすいのか、来てもらいやすいのか大事なことだし、我孫子市だけでなく、近隣の市も含めて小中学生に来てもらえるようなことや、中央博との連携もあると思う。今であれば生物多様性が大事なことがらにもなっているので、双方でどう分担をしたらよいかを考え、鳥の博物館に来れば、より詳しいこんなことが知れる、など具体的なことを十分考えて活用できるようにするとよいと思う。	西海
	・学校との連携という部分で、市内の小3の全校が社会科見学で来るようになってきている。2年に一回、子ども議会というイベントを行っていて、必ず子どもたちの中から、鳥博をもっと充実したらよいという意見は出ているし、子どもたちの間では非常に興味を示すような施設になっていて、印象に残っているのではないかと考える。今まで検討委員会を行ってきたが、子どもがまた来たくくなるような施設にしたほうがよいのではという意見をいただいた。子どもがまた来たくくなるような施設を目指し来てもらった子どもたちの中から、例えば、研究者になって、将来、鳥の博物館の館長になってもらうことも望む。	館

	・今日が最後の検討委員会ということで2年間ありがとうございました。	委員長
	話の中でも出てきたが、今はいろいろとデジタルや展示の内容にしてもコンテンツもどんどんとアップデートされ、博物館のリニューアルも大変だと思うが、マイナーチェンジ等まだあるかもしれないが、そういうときにまた、皆さんに支援をあおぐときもあるのではないかとも思う。最後に事務局より事務連絡あればお願いする。	
	・計5回委員会を開催した。貴重な意見をいただいた。おかげさまで基本計画案を作ることができた。よほどのことがない限り今回が最後の検討委員会ということになる。今後の流れは、明後日21日教育長、教育委員に説明する。その後、11月27日に市長説明・協議、その結果を踏まえ、12月中旬から1月中旬にかけ、パブコメ手続きをする。必要に応じて文言の修正があるかもしれないが、最終案を2月の定例教育委員会で議決を受け、正式な形のものが公に出るという運びでいる。来年度以降、R9年度の展示リニューアルを目指していくが、大きな予算が必要なこともあり、我孫子市は他にも大きな事業をかかえている。展示リニューアルについて企画あるいは財政セクションと事務レベルのやりとりをしている感触からすると、基本計画に記載のスケジュール通りに進むかはまだなんとも言えない状況。場合によってスケジュールを変えることがあれば、また、変更の旨をお伝えする。基本計画の最終完成案は3月頃になると思うが送付したい。	館
		以上